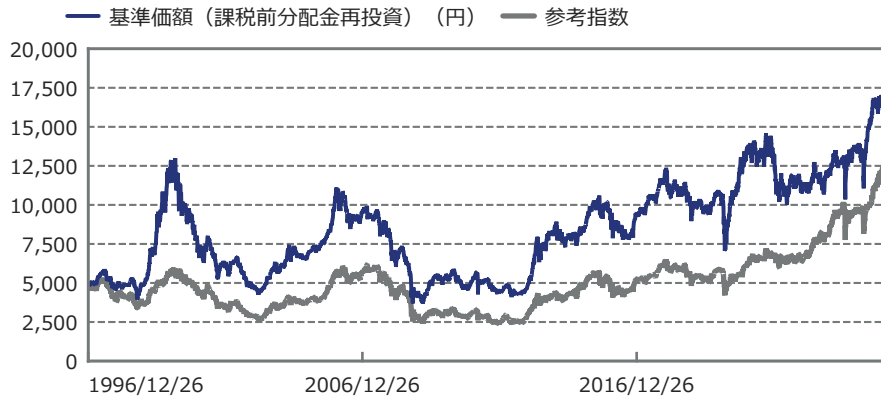


商品概要	設定日	1996年12月26日	信託期間	無期限	決算日	3月15日および9月15日（休業日の場合は翌営業日）
------	-----	-------------	------	-----	-----	----------------------------

運用実績

【過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。】

■ 基準価額の推移（課税前分配金再投資ベース）



※基準価額は信託報酬（後述の「ファンドの費用」参照）控除後のものです。なお、基準日時点の信託報酬率は年率1.595%（税込）です。
※参考指数（TOPIX（東証株価指数）（税引前配当込み））は設定日の前営業日を5,000として指数化しています（設定日から2023年9月15日まで「TOPIX（東証株価指数）」、2023年9月16日から「TOPIX（東証株価指数）（税引前配当込み）」）。※2023年9月16日から参考指数を「配当なし指数」から「配当込み指数」に変更しています。
※当ファンドは1999年9月16日に受益権を1：2に分割しました（その後、1口＝1円に再分割）。そのため、グラフは、基準価額・分配金ともに設定より元本5,000口当たり（1口＝1円）に換算した値で表示しています。

■ 騰落率（課税前分配金再投資ベース）

	1 カ月	3 カ月	6 カ月	1 年	3 年	5 年	設定来
ファンド	4.62%	3.10%	7.66%	24.63%	53.02%	31.89%	248.12%
参考指数	4.62%	7.21%	22.54%	31.07%	91.43%	109.05%	157.33%

※基準価額の騰落率は、課税前分配金を再投資したと仮定した数値を用いています。

ポートフォリオの状況

【当ファンドは、ファミリーファンド方式により運用を行っており、マザーファンドのポートフォリオの状況を記載しています。】

■ 資産配分

	純資産比
株式	95.8%
キャッシュ等	4.2%
銘柄数	68

■ 市場別組入比率

	純資産比
プライム	86.3%
スタンダード	5.6%
グロース	3.9%
その他	-
合計	95.8%

■ 組入上位10業種

	業種	純資産比
1	電気機器	19.1%
2	サービス業	13.4%
3	ガラス・土石製品	10.9%
4	化学	9.0%
5	銀行業	8.3%
6	機械	7.9%
7	情報・通信業	6.9%
8	輸送用機器	3.4%
9	非鉄金属	3.3%
10	小売業	2.9%

※業種は東証33分類に基づいています。

■ 組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	純資産比
1	東京応化工業	化学	3.4%
2	日清紡ホールディングス	電気機器	3.0%
3	横浜フィナンシャルグループ	銀行業	2.9%
4	ふくおかフィナンシャルグループ	銀行業	2.8%
5	沖電気工業	電気機器	2.8%
6	ローム	電気機器	2.7%
7	日本M&Aセンターホールディングス	サービス業	2.7%
8	メイコー	電気機器	2.6%
9	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.6%
10	ニチアス	ガラス・土石製品	2.6%

※業種は東証33分類に基づいています。

当資料ご利用の際は、最終頁の「ご留意いただきたい事項」をお読みください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

設定・運用：

インベスコ・アセット・マネジメント

【商号等】インベスコ・アセット・マネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第306号

【加入協会】一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会

ファンドマネージャーのコメント

■ 市場環境

1月の国内株式市場は、TOPIXは10か月連続の上昇、日経平均株価も続伸となり、ともに最高値を更新しました。特に、中旬に高市首相が衆議院を解散する意向という報道を受けると、高い内閣支持率を背景とした与党自民党の大勝および安定政権下での政策実行への期待感から株式市場の上昇が加速しました。その後は、日米協調の為替介入への懸念から円高・ドル安が急速に進行する局面等もあり、株式市場の上値は抑えられる展開となりました。物色動向としては、非鉄金属、石油・石炭製品に加えて、積極財政による財政悪化懸念により、長期金利上昇が継続したことから金融関連セクターが引き続き大きく上昇したほか、機械等が選好された一方で、内需関連のサービス業、小売業に加えて、情報・通信業、その他製品等が下落しました。スタイルとしては、バリュー株優位となる展開が続いた一方で、大きく出遅れてきた東証グロース指数が反発を見せました。

このような投資環境下、各指数の月間騰落率はTOPIXが+4.62%、日経平均株価が+5.93%、東証グロース市場250指数が4.92%、ラッセル野村小型インデックス（配当込み）が+4.25%となりました。

■ 運用の状況

1月の運用では、割安感の薄れた銘柄の売却を行う一方、業績見通しの分析から高い利益成長が期待できる銘柄の買付けを行い、ポートフォリオの調整を行いました。

■ 今後の投資方針（作成日現在のものであり、市場環境の変動などにより変更される場合があります。）

今後の日本株市場につきましては、短期的にはこれまでの急騰を受けて高値警戒感が引き続き意識される可能性はあるものの、国内経済の正常化やそれを踏まえた日本企業の本格的な変化等を手掛かりに、米国トランプ政権による「米国第一主義」政策や高市政権の政策動向をはじめとした政治情勢、米国等の内外の景気、物価や金融政策に加え、地政学リスクや、あるいは金利、海外株式、為替動向等を睨みながらも、引き続き中長期的には上値をうかがう展開に移行して行くことを想定しております。

国内景気においては、高市新政権の経済政策による下支えが期待されることに加えて、春闘で3年連続の大幅な賃金上昇が見込まれています。加えて豊富な手元流動性や深刻化する人手不足や収益力強化への対応を見据え、依然として投資意欲は旺盛であることから、設備投資も引き続き力強い動きを見せるものと予想しています。こうした中、企業業績は牽引業種が外需から内需にシフトする形で、堅調に推移することが期待できるほか、東証による「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」要請やグロース市場の機能発揮に向けた対応の浸透により、今後は中小型株も含めて、収益性向上策や株主還元策の強化を発表する企業の波及も株式市場の下支え材料となることでしょう。貯蓄から投資への流れの中で、個人による金融資産見直しや株式投資への動きもでてきており、引き続き中期的な観点から日本株に対する強気な見方を堅持しております。

以上の見通しの下、今後の運用では現在のポートフォリオ戦略を維持する基本方針に変更はありませんが、業績動向と株価バリュエーションを精査しながら、引き続き保有銘柄の入れ替えなど行う方針です。

TOPIX（東証株価指数）をはじめとする株式会社JPX総研（以下「JPX総研」という）が算出・公表する株価指数（以下「TOPIX等」という）は、JPX総研の知的財産であり、TOPIX等の算出、数値の公表、利用などTOPIX等に関する権利はJPX総研が所有しています。

ファンドの特色

- 主として、マザーファンド※¹ 受益証券への投資を通じて、わが国の金融商品取引所上場株式（これに準ずるものを含みます。）に投資を行います。
※¹ ファンドが投資対象とするマザーファンドは、「インベスコ ジャパン・グロース マザーファンド」です。
- 徹底したファンダメンタルズ分析に基づき、利益成長が日本経済全体の成長速度を上回ることが見込まれる銘柄に分散投資します。
- 幅広い投資ユニバースの中から、グロース・スタイルの投資アプローチを用いてボトムアップで利益成長企業を選別し、ポートフォリオを構築します。

ファンドのリスク

ファンドは預貯金とは異なり、投資元本は保証されているものではないため、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて受益者に帰属します。

基準価額の変動要因

ファンドは実質的に国内の株式など値動きのある有価証券等に投資しますので、以下のような要因により基準価額が変動し、損失を被ることがあります。

価格変動リスク

〈株式〉株価の下落は、基準価額の下落要因です。

株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績や財務状況、市場の需給などを反映し、下落することがあります。中小型株式は、一般的に業績の変化が大きく、株式市場全体の値動きよりも株価の変動が大きくなる傾向にあります。

信用リスク

発行体や取引先の債務不履行等の発生は、基準価額の下落要因です。

ファンドが投資する有価証券の発行体が債務不履行や倒産に陥った場合、または懸念される場合、当該有価証券の価格が大きく下落したり、投資資金を回収できなくなることがあります。また、投資する金融商品の取引先に債務不履行等が発生した場合に、損失が生じることがあります。

流動性リスク

流動性の低い有価証券等は、不利な条件での売買となる可能性があります。

市場規模が小さい、または取引量が少ない有価証券等については、市場実勢から期待される価格で売買できない場合や、希望する数量の一部またはすべての売買ができない可能性があります。

*基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

お申し込みメモ

購入単位	お申し込みの販売会社にお問い合わせください。 * 分配金の受け取り方法により、「自動けいぞく投資コース」と「一般コース」の2コースがあります。
購入価額	購入の申込受付日の基準価額
換金価額	換金の申込受付日の基準価額から、信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金の申込受付日から起算して5営業日目からお支払いします。
購入・換金申込不可日	—
申込締切時間	原則として毎営業日の午後3時30分まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの） * 販売会社によっては、より早い時間に申込締切時間を設けている場合がありますので、詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
換金制限	投資信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金申込には一定の制限を設ける場合があります。
信託期間	無期限（設定日：1996年12月26日）
繰上償還	信託契約の一部解約により、受益権の総口数が20億口を下回ることとなった場合などは、信託期間の途中で償還することがあります。
決算日	毎年3月15日および9月15日（ただし、同日が休業日の場合は翌営業日）
収益分配	年2回の決算日に分配方針に基づいて収益の分配を行います。 * 「自動けいぞくコース」でお申し込みの場合は、分配金は税引後無手数料で再投資されます。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度「NISA（ニーサ）」の適用対象となります。当ファンドは、NISAの対象ではありません。配当控除は適用されます。

ファンドの費用

投資者が直接的に負担する費用

購入時手数料	購入の申込受付日の基準価額に販売会社が定める 3.30%（税抜3.00%）以内 の率を乗じて得た額
信託財産留保額	換金の申込受付日の基準価額に 0.30% の率を乗じて得た額

投資者が信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用 （信託報酬）	日々の基準価額の前計算期末基準価額に対する騰落率に応じて、投資信託財産の純資産総額に対して 年率1.485～1.925%（税抜1.35～1.75%） を乗じて得た額とします。運用管理費用（信託報酬）は日々計上され、ファンドの基準価額に反映されます。なお、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支弁します。
その他の費用・ 手数料	- 組入有価証券の売買委託手数料などは、実費を投資信託財産中から支払うものとします。これらの費用は運用状況などによって変動するため、事前に具体的な料率、金額、計算方法および支払時期を記載できません。 - 監査費用、目論見書・運用報告書の印刷費用などは、投資信託財産の純資産総額に対して年率0.11%（税抜0.10%）を上限として、毎計算期末または信託終了のとき、投資信託財産中から支払うものとします。

* 上記、ファンドの費用の合計額については、保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

販売会社（投資信託説明書（目論見書）のご請求・お申し込み先）

- 受益権の募集・販売の取り扱い、投資信託説明書（目論見書）の交付、運用報告書の交付代行、分配金・換金代金・償還金の支払いおよび分配金の再投資※に関する事務などを行います。

※ 分配金を受け取るコースのみを取り扱う販売会社は当該業務を行いません。

金融商品取引業者等の名称		登録番号	日本証券業協会	一般社団法人 日本投資顧問業協会	一般社団法人 金融先物取引業協会	一般社団法人 第二種金融商品取引業協会
株式会社SBI証券	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第44号	○		○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券)	登録金融機関	関東財務局長(登金)第10号	○		○	
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第164号	○		○	
三井住友信託銀行株式会社※	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	
三菱UFJ eスマート証券株式会社※	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第61号	○	○	○	○
三菱UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社※	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第2336号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第195号	○	○	○	○

※ 新規の募集・販売の取り扱いを停止しています。

- 当ファンドの照会先
インベスコ・アセット・マネジメント株式会社（受付時間は営業日の午前9時から午後5時まで）
電話番号：03-6447-3100 ホームページ：<https://www.invesco.com/jp/ja/>

【ご留意いただきたい事項】

当資料は、インベスコ・アセット・マネジメント株式会社が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。当資料は信頼できる情報に基づいて作成されたものですが、その情報の確実性あるいは完結性を表明するものではありません。また過去の運用実績は、将来の運用成果を保証するものではありません。本文中で詳述した当資料の分析は、一定の仮定に基づくものであり、その結果の確実性を表明するものではありません。分析の際の仮定は変更されることもあり、それに伴い当初の分析の結果と重要な差異が生じる可能性もあります。投資信託は、株式などの値動きのある有価証券などに投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、投資元本を割り込むことがあります。これらの運用による損益はすべてご投資家の皆さまに帰属します。投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構または保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、登録金融機関は投資者保護基金には加入していません。当ファンドの購入に関しては、クーリングオフ（金融商品取引法第37条の6の規定）制度の適用はありません。当ファンドの購入のお申し込みを行う場合には、投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめまたは同時に販売会社でお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

お申し込みの際は、必ず「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。